

A. 活動(Activities)

A.1 FIDIC2008 ケベック大会の申し込み始まる (Registration for FIDIC 2008 Quebec Conference open)

コンサルティングエンジニアリング業界第一級の会議である FIDIC 大会が、今年カナダのケベックで 9 月 7 から 10 日にかけて開催される。すでに参加登録が www.FIDIC2008.org を通じて始められている。この年次大会では“社会に貢献する力強い業界”のテーマの下、重要なインフラ整備への責務を担うコンサルティングエンジニアと他の専門家が、より効率的に社会に貢献できるさらに強力な業界を作りあげるための取り組みを行うこととしている。会議では、グローバルなニーズに合う質の高いプロジェクトを提供する中で意志決定者に対する影響力を持つエンジニアの役割に焦点が当てられる。3つのサブテーマ(社会への影響; 高い品質の提供; 強い組織力の構築)それぞれが、日毎の本会議で議論される。ビジネスリーダー、クライアント、一般社会からの代表者が講演を行い、より強力で、より現実的なコンサルティングエンジニアリング業界の発展を確保しつつ、社会の期待に応えることに役立つ戦略を提案する予定である。本会議の最後には、業界としての明確な目標や行動が示されるであろう。



会議には同伴者のためのすばらしいプログラムや特別なイベントが盛り込まれている。また、若手専門職は特別セッションを準備している。契約約款の主要な起草者による DBO (Design-Build-Operate: 設計 - 施工 - 運営一括発注方式) 契約約款セミナーも、会議終了翌日の 2008 年 9 月 11 日に世界的に有名な Chateau Frontenac Hotel の会議場で開催される。当ホテルの宿泊については、会議特別レートでの予約が 2008 年 8 月 3 日まで可能である。

[AJCE 事務局より] 毎年、FIDIC 大会には日本から 30 名程度が参加しています。AJCE 事務局では開催地ケベックへの航空券と会場ホテル(又は会場近郊ホテル) 宿泊をセットにした『AJCE ツアー』をご用意しております。FIDIC 大会の内容は『FIDIC 大会報告会(10 月 3 日開催予定)』にて報告するほか、AJCE 会報・HP に掲載する予定です。『AJCE ツアー』と『FIDIC 大会報告会』についてのお問い合わせは AJCE 事務局 (TEL: 03-3839-8471) まで。

A.2 アフリカデーはエネルギーと環境に重点 (Africa days highlight energy and the environment)

エネルギーと環境は、全世界、とりわけアフリカ諸国にとって非常に重要な問題となっている。2008 年 6 月 22 日から 25 日にかけて ANBEIC-Tunisia 主催によりチュニスで開催される Consulting Engineers Africa 2008 の一連のイベントの 1 つとして行われる 2008 年度 FIDIC アフリカ地域協会連合(GAMA) 会議(2008 年 6 月 22~23 日開催)では、エネルギーと環境がテーマとして取り上げられる。このイベントは“FIDIC GAMA-Africa 2008 地域会議”、“ANBEIC エネルギー・環境ワークショップ”、“FIDIC-ANBEIC 契約約款と紛争解決セミナー”の 3 つにより構成されている。今回の GAMA 会議の特徴は、アフリカ開発銀行の方針、実務、能力開発計画を主なテーマとする同銀行のワークショップである。参加希望者はイベント毎、もしくは全イベントへの参加登録が可能であり、FIDIC-GAMA メンバーには 30%割引が適用される。会議のプログ



ラムや登録は FIDIC-GAMA 2008 Conference ホームページ(HP) <http://www1.FIDIC.org/gama/> へ。

A.3 理事会で取り組む戦略的主要課題 (Key strategic issues tackled by the Executive Committee)

2008年1月下旬にマドリード、4月下旬にソウルで開催された FIDIC 理事会において、バランススコアカード方式に基づいた FIDIC の戦略プランを最終化すること、また、ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合 (FIDIC-EFCA) 作業部会によるすばらしい調査と報告について意見を述べることに、戦略レベルで合意を得られた。この調査と報告は FIDIC と EFCA によるヨーロッパでのより効果的なプレゼンスのあり方や、FIDIC と EFCA の共通の関心事項に関するより緊密な連携の可能性について行われた。委員会の活動は、会員調査によると、ISO 品質管理の連絡体制が活発な活動により維持されていることも認知された。また業務委員会 (Business Practices Committee) はその活動計画に優先順位をつけることとし、リスクと責任に関する委員会 (Risk and Liability Committee) は、既存出版物の更新をベースに活動計画を再検討することとなった。また、研修実施方針 (News item 参照) についても承認された。委員会の教材開発への幅広い関与を求めだけでなく、FIDIC 会員協会 (MA) のようなローカルパートナーと可能な限り連携を図りながら、研修提供者によって商業ベースで準備されるモジュールに基づいて行う現在の研修実施方針も確認された。FIDIC-CNAEC-Tsinghu 研修センターおよび CNEAEC-中国による FIDIC 認定のための試行計画が、政府戦略の変更があるまで保留事項とされた。若手専門職 (YP) の活動は、若手専門職フォーラム (YPF) 事業計画への合意によって特別な配慮を受けることとなった。この合意には、明らかにブランド力のある YPF ニュースレターの MA を通じての配布協力、キャリアパス研修として行われている YP 経営研修 (2008 FIDICYP 研修プログラムには 30 人以上の参加実績がある) に焦点を当てることが含まれている。YPF を立ち上げ、真のグローバルネットワークにまで引き上げた Richard Stump (写真参照) の後任として、理事会は Alex Eyquem を YPF の議長として任命した。



A.4 運営関連の理事会審議事項 (Operational aspects under executive scrutiny)

マドリードとソウルで開催された FIDIC 理事会において、2007 年の収支報告書が承認された。収支報告書では、主として FIDIC-Bookshop の売上げが予想以上の 30% 増であったことと、再版との間にタイムラグがあったため、300,000 スイスフラン (SFR) の余剰金が発生していることが報告された。現在、内部保留金が 2,730,000 SFR あるが、増加する FIDIC の負債をカバーするため、これを 2,800,000 SFR レベルまで増やすことが決定された。また、理事会は管理費削減のために公文書を英語に限定することを定款に定めることを検討した。FIDIC 契約約款のライセンス認可手順 (News item 参照) と FIDIC 会長認定紛争裁定人の更新リストを承認した。会員関連としては Implenla (スイス)、Les Contracteurs (フランス)、Robert Mclean (カナダ)、および A. Siddiqui (UAE) の 4 者が、協賛会員として認められた。そのほか、以下が承認された。



- ◆ 会費未納のため、アルバニアをメンバーから除外すること。
- ◆ 南米コンサルティングエンジニア協会をメンバーとして受け入れるために直接交渉を行うこと。
- ◆ 会費算定における開発途上国係数に対するインフレの影響を調査すること。
- ◆ 2007 年の総会で同意された新区分会員の承認手続き。

準会員 (Associate member) 費は以下の算定式で決定される。

その国の業界スタッフ人数 X 開発途上国係数 X 入会緩和係数 0.25 X 単価 (現在、3.1 SFR)

各 FIDIC 会員協会は、「傘の下で協賛会員になる団体のスタッフ数はその国の業界スタッフ人数に比例すべきである」とした提案に関して今後意見を求められるであろう。出版物として承認されたものは、「業務範囲ガイドと事前資格審査の定義」である。新しい部分は、3章からなるプロジェクト調達ガイド(写真参照)である。これは、請負業者のための改定された事前資格審査書式を組み入れている。第2章は 1994 年の第2版入札手順書に入換え、第3章はプロジェクト戦略を扱う内容となるであろう。

今後の出版物としては、FIDIC - 世界技術者連盟 (WFEO) - UNESCO の共同執筆によるエンジニアリングに関する報告書(2008 年)と FIDIC の世界のインフラストラクチャの現状報告(2009 年)である。理事会はまた、FIDIC ニュースが連盟の活動を通じて FIDIC と直接関係をもつ企業へ広めていくことに、原則的に同意した。ジュネーブで開催される 2009 年 WFEO 世界技術者会議には FIDIC から講演者を派遣して支援する。NGO との協働に関する提案については、その都度決定されるであろう。多くの NGO はコンサルティングエンジニアリング業界に対して場合によっては発注者とも競争相手ともなってきた。最後に、作業部会は 2008 年 FIDIC ケベック大会の総会(2008 年 9 月 10 日; www.FIDIC2008.org)での予備討論に向けて、FIDIC 会員協会からの情報も受けながら、2013 年開催の FIDIC 創設 100 周年大会への提案書を起草するであろう。

B. 行事 (Events)

B.1 FIDIC-アジア太平洋地域(ASPAC)会議に 25 ヶ国参加 (Some 25 countries represented at the FIDIC Asia-Pacific conference)

2008 年 4 月 22 日から 25 日にかけてソウルで開催された FIDIC-ASPAC 会議には約 25 ヶ国が参加した。この会議は FIDIC の協賛会員であるインドコンサルタント開発センターの支援を受けている TCDPAP(アジア太平洋地域技術コンサルティング開発プログラム)との協働で開催された。この会議開催直前に第 169 回の FIDIC 理事会が開かれ、FIDIC 会長の John Boyd を含むメンバー数名に対する ASPAC への参加要請について議論した。



今回の ASPAC 会議のテーマは「グローバル化が進む中でのエンジニアの役割」であり、オーストラリア、アゼルバイジャン、中国、インド、インドネシア、日本、韓国、ミャンマー、ネパール、スリランカ、ベトナムからの代表者が以下の事項についてレビューを行った。

- ・ コンサルタント技術者が自国で果たしてきた役割
- ・ 自国の産業発展の経緯
- ・ 各地域の比較的開発が進んだ国と開発途上にある国との資源保有格差の問題
- ・ 各国が採用している様々な調達システムの中で、どのようにコンサルタントが選定されてきたか

発表内容は同会議の HP で参照できる。

韓国は 2012 年 FIDIC 大会のホスト国となり、この ASPAC 会場脇の壮大な COEX 会議センター(写真)で開催することを提案した。

【AJCE 事務局より】この FIDIC-ASPAC/TCDPAP 会議には AJCE から廣谷彰彦会長を始め 6 名が参加しました。会議の内容については、AJCE 会報夏号 (Vol.32 No.2 平成 20 年 7 月)と HP に掲載しています。

B.2 行事予定 (Forthcoming meetings and events)

- 2008年5月28～29日:FIDIC - インドネシア 契約約款セミナー [Seminar](#); ジャカルタ,
2008年6月2～4日:FIDIC-国際商業会議所(ICC) 紛争解決会議 [Conference](#); ヒューストン
2008年6月9～10日:FIDIC-ECV社* クレームと紛争解決に関する研修コース [Course](#); ブリュッセル
2008年6月9～10日:FIDIC-多国間開発銀行(MDB) 持続可能性と公正性セミナー [Seminars](#); ワシントン DC
2008年6月22～25日:FIDIC アフリカ地域会議(GAMA) [Conference](#); チュニス
2008年6月25日:FIDIC - チュニア契約約款セミナー [Seminar](#); チュニス
2008年6月26～27日:FIDIC - コーナーストン社* クレームと紛争解決に関するワークショップ [Workshop](#); ブダペスト
2008年9月7～10日:2008年FIDICケベック大会 [Conference](#); ケベック
2008年9月26～27日:FIDIC-VBIドイツ 契約約款セミナー [Seminars](#); ベルリン
2008年10月6～7日:FIDIC-ECV社* 契約約款研修コース [Course](#); ブリュッセル

*:FIDIC 研修パートナー会社

C. 契約約款 (Contracts)

C.1 紛争裁定人研修広がる (Dispute adjudication training expands)

FIDIC 契約約款の活用が世界中で広がる中(FIDIC の 2007 年販売額は 30%増)、母国語を用いて働き、地域に精通した経験と資格を有する紛争裁定人を載せた自国の紛争裁定人リストを策定した会員協会が出てきている。FIDIC の HP (<http://www1.FIDIC.org/resources/adjudicators/default.asp>) で詳述されるように、このリストはFIDICのガイドラインに従って作られている。また、HPでは種々の情報へのアクセスポイントを維持更新している。



アジア - 太平洋地域では、紛争裁定人フォーラム(マニラ:2007年8月)が CECOPHIL-フィリピンと紛争裁定委員会の地方支部により組織されている。AJCE および国際協力銀行(JBIC)がこれを支援している。Salvador Castro(写真)が、このフォーラムのコーディネータである。このフォーラムは、FIDIC-CECOPHIL-DBRF 契約約款研修コース(2008年8月22～27日マニラ)を企画している。

バルカン諸国においては、「裁定を含む紛争解決サービスへのFIDICの支援に関する協定」を国際金融公社が最終調整しているところである。

一方、FIDIC 契約約款マニュアルのモジュール1(実務編)およびモジュール2(クレームおよび紛争管理)に関する研修コースの要請に対応するため、ECV社(FIDICの研修パートナー会社)およびDB Training社(FIDICの研修ワークショップパートナー会社)が、FIDIC および各地域のパートナーと協力し合ってモジュール3(DAB)研修コースおよびワークショップを、ボスニア、トリニダード、UAE およびベトナムなどで計画している(詳細はFIDIC HP上に掲載予定)。研修活動は実施可能ならば地域を選ばず実施する方針である。ECV社はこれまでに、ルーマニアとUAEの「FIDIC-ECV社 DAB研修コース」を運営した。また、同様なコースは、世界銀行からの現地支援により2008年5月27～28日にスリランカで開催される。

D. 協会活動 (Representation)

D.1 FIDIC シリア啓発セミナー (FIDIC Syria Awareness Seminar)

シリアのコンサルティングエンジニアリングの特徴は、政府機関に管理されている巨大なコンサルティング組織 (the General Company for Consulting) があることと、唯一の調達法により民間企業を統制し、すべての政府調達を行っていることである。公共においても民間においても国際的な開発業者や建設業者にとって多くの受注機会があることや、近代的なインフラ整備に対するニーズの高まりから、政府は調達に FIDIC 契約約款、サービス契約書、最善の実務ガイドラインを取入れるための方法を検討している。同時に民間においても FIDIC 契約約款の導入を進めている。

ダマスカスを拠点とするコンサルティング・法律事務所である Meethak および Halcrow Syria は、Maxime Mazloum (前 FIDIC 理事) および Peter Boswell (FIDIC 事務局長) とシリア首相 Dr. Mohammad Naji Ottri との面会を 2008 年 2 月に実現し (<http://www.sana.sy/eng/21/2008/02/03/159253.htm>)、首相主導で FIDIC 啓発セミナーを組織化することに同意を得た。2008 年 4 月にダマスカスで開催されたセミナーには、主要各省の高官を含む 100 人以上の関係者が出席した。FIDIC 前会長の Eigil Pedersen と FIDIC 事務局長の Boswell が口火を切り、Nabil Abbas (サウジアラビア)、Munther Saket (ヨルダン)、および David Yaw (Halcrow) が進行役を務め、FIDIC 契約約款、コンサルタントサービス契約書、およびコンサルティング業界の組織についてのセッションが進められた。セミナー終了直後に開かれた専門家会合では、調達法の付属書に FIDIC 建設契約約款を採用すること、および FIDIC の発注者 / コンサルタントモデルサービス契約書に従ってコンサルタント契約書を更新することが提言された。次のステップは研修の必要性について調査すること、およびシリアが FIDIC のメンバーとして持続可能なコンサルティングエンジニアリング業界を目指して活動する方法を検討することである。

E. ビジネス実務 (Business practice)

E.1 持続可能な建築連盟が発足 (SB Alliance launched)

英仏の建築基準適合認証に責任を持つ研究機関、BREEM (Biomedical Research Experience for Engineering Majors、英) および HQE (LA HAUTE QUALITE ENVIRONNEMENTALE、仏) は「持続可能な建築連盟」(Sustainable Building Alliance (SB Alliance)) を発足させ、関係者とともに中核となる建築物評価システムを共同開発する (写真は HQE が評価した建築物である)。目的は、地域や国の違いを考慮する様々な評価システムの透明性を確保するという重要な課題に対する共通した計測方法を確立することである。



ほとんどの計測システムは (BRE サイト参照) は地域特性を考慮する評価方法を受け入れる方向に向かっているが、これは当初から FIDIC のプロジェクト持続性可能性管理 (PSM) 指標システムが認識していたものである。PSM を取り入れることにより、各のシステム地域特性を考慮した調整は SB Alliance に参画するシステム全体において厳密になり、かつ標準化できるであろう。現在、たとえば米国 LEED、フランス HQE、イギリス BREEM 等の複数の評価システムがあるが、将来的には SB Alliance チームによって構築される一つの認証の方がクライアントの期待に沿えるものと考えている。

E.2 FIDIC 持続可能な開発に関する委員会委員が UNEP (国連環境プログラム) の議長に (Sustainable Development Committee member to chair UNEP initiative)

Dr Ike van der Putte (RPS 社、オランダ、FIDIC 持続可能な開発に関する委員会委員)が、国連環境プログラム持続可能な建築・建設イニシアティブ(UNEP SBCI)2008 年～2009 年の議長に選任された。SBCI は建設セクターにおいて持続可能な解決策を支援する UNEP と世界的大手企業の世界的なパートナーシップであるが、彼は FIDIC を代表した SBCI 委員会の創設メンバーである。



SBCI 気候変動シンクタンクは、二酸化炭素排出権取引市場に建築分野を含めるメカニズムを開発することを目指している。これは、京都議定書のクリーン開発メカニズム(CDM)が建築分野では機能していない現実への対応である(2700 件の CDM プロジェクトのうち建築は 14 件のみ。建築物は温室効果化ガスの 30～40%を発生している)。他のシンクタンクは、a)ゼロエミッション建築に向けた取り組みの進捗状況報告、b)既存の建築評価システムから選んだ指標を用いて行う「世界的な持続可能な建築・建設のためのベンチマーキングシステム」の起案、c)さまざまな環境に応じてもっとも適切な方針の組み合わせを選択できるインターネットツールの開発、を行う。

F. 事業展開 (Business development)

F.1 開発銀行向け持続可能性と公正に関するセミナー (Development bank sustainability and integrity seminars)

MDB の調達部門のトップは、2008 年 6 月に持続可能性と公正性の管理という 2 つの重要事項に関するワークショップを開催することを、2007 年後半に同意した。その目的は、「いかにして持続可能性と汚職防止への取り組みを調達手順に組み込むか」、また、それらを「いかに実務で機能させるか」について、詳細に検討することである。FIDIC 会長 John Boyd と、FIDIC 専務理事 Enrico Vink は、2008 年 2 月にすべての主要な開発銀行を訪問し、銀行の参加を確認するとともにセミナーのプログラムの周知を行った。FIDIC 理事会のメンバーは、Geoff French がロンドンで、Pablo Bueno Tomas がワシントンで、Xie Shaozhang がマニラで、そして Patrick Batumbya がチュニスで、それぞれ支援した。また地域の意見を反映するため、FIDIC-アジア太平洋地域(ASPAC)議長である廣谷彰彦がマニラで、また FIDIC アフリカ地域協会連合(GAMA)議長である Exaud Mushi がチュニスで、それぞれ議論に加わった。セミナーは招待者のみを対象に、2008 年 6 月 9～10 日の日程で、ワシントン DC で行われる。

G. 倫理 (Ethics)

G.1 FIDIC 世界技術者連盟(WFEO)と覚書を交す (FIDIC signs a MoU with professional associations organization)

公共部門に従事しているプロフェッショナルエンジニアの中には協会によってそれなりに位置づけされているものもいるが、多くのエンジニアは自分達の関心を示すために、WFEO 傘下の専門家協会に個人の専門家として所属している。FIDIC は、高品質で持続可能なプロジェクトを実施していく上で公共部門のスタッフが重要な役割を果たしていると認識している。2008 年 1 月下旬にマドリードで開催された理事会において、FIDIC は WFEO と特にプロジェクト調達における公正性を確保するための共同活動を拡大する覚書を交した。

H. イメージ (Image)

H.1 世界銀行 国別調達システムの試行プログラムを開始 (World Bank country systems pilot programme to go ahead)

世界銀行は 2005 年以來、融資プロジェクトを獲得するための国別調達システムの試行方法について検討してきた。ディスカッションペーパーは寄せられたコメントをもとに改定を重ね、2008 年 3 月にさらなるコメントを求めるために公開された。2008 年の 4 月下旬、世界銀行の常任理事会は、世界銀行の基準に合致する調達システムを持ち、国際的に好事例となる厳選された 8~10 ヶ国の試行プログラムを承認した。2 年後(2010 年)、常任理事会はその評価を行い、試行を継続するか、また継続するのであればどのような方法で継続するか、を決定する予定である。コンサルティングサービスの調達は特に難しい問題を含むことから、最終的にはこれに含まれなかった。FIDIC は世界銀行と連携し、試行プログラムに対してアドバイスをを行った。主要な問題に関する FIDIC のコメントは、銀行の国別調達システムのウェブサイトで見ることが可能である。

H.2 国際協力銀行(JBIC) FIDIC 標準契約約款のライセンス契約を予定 (Japan development bank envisages contract licence)

日本の JBIC は、円借款を含め 80 億ドルものプロジェクトを抱えており、アジア及びアフリカの約 30 カ国で活動している。JBIC は、総支出額 70 億ドルに及び日本の ODA の総合的な見直しを行う主要機関として、国際協力機構 (JICA) と合併することになった。

オーストラリア国際開発援助局 (AusAID) の前例に倣って、JBIC は FIDIC 標準契約約款国際融資機関版 (通称 MDB 版) の使用に関するライセンス契約を結ぶ準備を進めている。この契約約款の運用に当たって、同銀行員の研修を支援する機会が引き続いてあるものと考えられる。既にインドネシアでは、主要な道路プロジェクトに AusAID が MDB 版を使用したのを契機に、MDB 版と標準契約約款の初版をインドネシア語 (FIDIC Bookshop を参照) に翻訳することになった。また、FIDIC-INKINDO 契約約款研修コース計画をスタートさせるための初めての研修セミナーが 2008 年 5 月 28 日から 29 日にかけてジャカルタのリッツカールトンホテルにおいて開催される予定になっている。John Boyd FIDIC 会長および Enrico Vink FIDIC 専務理事は、JBIC とのライセンス契約とその調達方針および調達手順を確認するために 2 月下旬に JBIC 幹部と会合を持った。また、FIDIC 代表団は日本滞在中に、日本の AJCE を支援することができた。インフラストラクチャ、建設、運輸、および他の主要な経済分野を所管し、コンサルティングサービスの輸出を推進する「スーパーミニストリー」である国土交通省の技監との面会では、調達方法の改善を要請した。



【AJCE 事務局より】

- 1) John Boyd FIDIC 会長と Enrico Vink 専務理事の訪日の概要については、AJCE 会報、ホームページに掲載いたします。
- 2) 平成20年度の日本政府によるODA予算は7,002億円 (政府予算案、円借款含まず) で、このうちJICA所管は1,538億円を占めています。また、JBICが扱う2006年度の円借款承諾額は8,435億円となっています。

以上